

2026年度 <OIC>全学副専攻 外国語コミュニケーションコース募集要項 **追加募集**

1. 全学副専攻(OIC)とは


全学副専攻(OIC)(以下、副専攻)は、必修外国語の履修などでこれまでに培った外国語能力をベースに、より一層高い運用能力とその外国語学習を通じて幅広い教養を身につけることを目的として、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の各コミュニケーションコースを開設しています。コースごとに開講される副専攻科目から、必要な科目を選択して履修します。今回は、**次年度の春学期**から始まる初修外国語の各コミュニケーションコースの募集を行います。

副専攻募集 Web ページ:<https://www.ritsumei.ac.jp/gengo/seika-manabi/minor.html/>

※最新の副専攻募集の案内を掲載しています。



2. 募集日程

内 容	日 程	詳細・備考
募集ガイダンス		<p>募集ガイダンスページに、動画を掲載していますので、以下のリンクよりご覧ください。 https://www.pip-maker.com/?view=jbjl</p> <p>* 日程等は一次募集の内容となりますので、ご注意ください。</p>
「応募フォーム」提出	<p>12月3日(水) 10:00 ~ 12月12日(金)17:00 ✕ (期限厳守)</p>	<p>応募できるのは1回生のみです。 https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20251126192040572694803</p>  <p>※受付完了後、学内メールに受付完了メールが届きます。 メールの受信をもって応募手続き完了となります。メールが届かない場合は言語教育センターまでお問い合わせ下さい。</p>
受講許可者発表	1月21日(水) 10:00	manaba+Rにてお知らせします
受講本登録	2026年4月	必ず各自で受講本登録を行ってください。

3. 募集・選考について

(1) 各コースの募集定員

語種	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
定員	20 名	12 名	24 名	18 名	19 名

(2) 対象学部・回生

2025 年度 経営学部 経営学科 2言語コース 1 回生

(3) 応募資格

今年度、必修外国語として当該言語(応募する言語)を履修していること。

ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある(その言語圏での留学・滞在経験を含む)場合は、個別に応募の可否を判断します(語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります)。

応募締め切りの一週間前までに、下記の Web 申請フォームより、「(OIC)全学副専攻 応募可否相談シート」を提出して下さい。

※母語またはそれに相当するレベルを除く(留学生含む) また、初修外国語既習者対応プログラム履修者は応募できません。

<「全学副専攻(OIC) 応募可否相談シート」Web 申請フォーム>

【提出期間】12 月 3 日(水)10:00 ~ 12 月 5 日(金)17:00(期限厳守)

【URL】<https://cw.ritsumeikai.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20251126184520761694803>



(4) 副専攻の履修は「申込→許可制」となり、1コースしか選択できません。

(5) 以下の方法で選考を行います。

選考方法	春学期の当該言語成績、GPA、志望理由書に基づき総合的に判定する。
------	-----------------------------------

4. 修得が必要な単位数とその取り扱い

選択したコースに設置されている科目の中から、卒業までに最低修得単位数を修得した場合に限り、卒業に必

要な単位として認定されます。

12 単位未満の場合、卒業に必要な単位として認定されませんが、総修得単位に算入されます。

12 単位以上修得した場合を「副専攻修了」とし、卒業時に修了証を発行します。

卒業に必要な単位として 認定されるのに必要な 最低修得単位数	経営学部での認定分野
12単位	外国語科目

5. 履修上の注意点

- (1) 全学副専攻を選択・登録できるのは 1 コースのみです。またコースの途中での変更は一切認められません。
- (2) 全学副専攻の登録単位数は、経営学部で定められている「受講登録制限単位数」に含まれます。
- (3) 全学副専攻の再履修クラスはありません。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に同一科目または未履修の科目を受講してください。
- (4) 全学副専攻では、単位修得済の科目を重複履修することはできません。未履修や不合格の科目を履修してください。
- (5) 全学副専攻科目の配当年次は、「1 年次」＝ 2 回生、「2 年次」＝ 3 回生と理解してください。
- (6) 全学副専攻科目については、配当セメスターが指定されています(「7. 各コースの紹介」の科目編成参照)。基本的にはこの配当セメスターでの受講を推奨しますが、専門科目の履修や海外留学との関係で配当回生での履修ができない場合は、配当セメスター以降の受講可能なセメスターで受講してください。
- (7) 受講申込後にやむを得ず途中で全学副専攻の履修を辞退する場合には、言語教育センターで「全学副専攻辞退願」を受け取り、提出してください。
- (8) 副専攻科目は、コース修了に必要な単位数を満たしていない場合でも、GPA 計算の対象になります。

< 海外留学(協定・個別合意)での単位認定 >

副専攻履修言語にかかわる海外留学(協定・個別合意)に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により 8 単位を上限に副専攻の単位として認定することができます。申請は、海外留学(協定・個別合意)の帰国後、速やかに経営学部事務室で行ってください。なお、一度確定した単位を遡って「単位認定申請」することはできません。

< 全学海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」の単位授与 >

全学海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」に参加した場合、全学副専攻科目として単位授与を行いません。教養科目で単位を授与します。

6. 受講登録について

- (1) 受講許可者発表は、2026年1月21日(水)10:00に行ないますので、必ず確認のうえ、許可された学生は、各学期の「受講本登録期間」において、各自で受講登録(本登録)をしてください。
- (2) 副専攻科目の時間割は、2026年3月末に言語教育センターHPにアップされます。

7. 各コースの紹介

【ドイツ語コミュニケーションコース】

◆ コースの位置づけ

ドイツ語の学習を通して、現代のドイツ語圏の文化や社会や経済を学ぶとともに、留学や仕事で役立つ、高度で実践的な語学力の養成を目指します。欧州連合(EU)の中心に位置し、世界の民主主義や環境問題を牽引するドイツを深く知ることで、21世紀を生きる国際人への道が拓けるでしょう。副専攻1年次(2回生)ではドイツ語検定試験3級(CEFR,A2)、2年次(3回生)ではドイツ語検定試験2級(CEFR,B1)程度の語学力を目指します。学内制度によるドイツ語圏への留学にも積極的に応募してください。留学に必要な語学力と生活の基礎知識の両面で支援します。

◆ 科目編成

配当 年次	科目名	授業開講 期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副)ドイツ語・異文化コミュニケーション 1	春学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶドイツ語 1	春学期	2
	(副)ドイツ語で学ぶ文化・社会 1	春学期	2
	(副)ドイツ語・異文化コミュニケーション 2	秋学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶドイツ語 2	秋学期	2
	(副)ドイツ語で学ぶ文化・社会 2	秋学期	2
2 年次 (3 回生以上配当)	(副)時事ドイツ語 1	春学期	2
	(副)ドイツ語・比較文化論 1	春学期	2
	(副)ドイツ語プレゼンテーション 1	春学期	2
	(副)時事ドイツ語 2	秋学期	2
	(副)ドイツ語・比較文化論 2	秋学期	2
	(副)ドイツ語プレゼンテーション 2	秋学期	2

◆ 科目について

◇ドイツ語・異文化コミュニケーション1

この授業では、ドイツ語・基礎およびドイツ語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象についてドイツ語の表現力の向上を主要な目的とする。これと並行して、ドイツ語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇ドイツ語・異文化コミュニケーション2

この授業では、ドイツ語・異文化コミュニケーション 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象についてドイツ語の表現力の向上を主要な目的とする。これと並行して、ドイツ語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇ドイツ語で学ぶ文化・社会1

この授業では、ドイツ語・基礎およびドイツ語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特にドイツ語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。これと並行して、ドイツ語圏の文化・社会への理解を深め、日本語とドイツ語および両文化・社会の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇ドイツ語で学ぶ文化・社会2

この授業では、ドイツ語で学ぶ文化・社会 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特にドイツ語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。これと並行して、ド

イツ語圏の文化・社会への理解を深め、日本語とドイツ語および両文化・社会の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇映像・CALL で学ぶドイツ語1

この授業では、ドイツ語・基礎およびドイツ語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。これと並行して、映画やネットニュース、歌や朗読などに取り組むことで、ドイツ語の多様性も学んでいく。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇映像・CALL で学ぶドイツ語2

この授業では、映像・CALL で学ぶドイツ語 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。これと並行して、映画やネットニュース、歌や朗読などに取り組むことで、ドイツ語の多様性も学んでいく。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇時事ドイツ語 1

本授業では A2 程度の語学力を前提として、さらに語学力を高める。特にドイツ語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行してドイツ語圏の時事問題への理解を深め、日本とドイツ語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇時事ドイツ語 2

本授業では、時事ドイツ語 1 で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。特にドイツ語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行してドイツ語圏の時事問題への理解を深め、日本とドイツ語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

◇ドイツ語・比較文化論 1

この授業では、A2 程度の語学力を前提として、ドイツ語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、この分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これによりドイツ語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

ドイツ語・比較文化論 2

この授業では、ドイツ語・比較文化論1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業では、ドイツ語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、この分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これによりドイツ語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

◇ドイツ語プレゼンテーション 1

この授業では、A2 程度の語学力を前提として、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、ドイツ語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇ドイツ語プレゼンテーション 2

この授業では、ドイツ語プレゼンテーション1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業では、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、ドイツ語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

【 フランス語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

基本的な目標は、国際化の時代において求められるフランス語能力を身につけ、将来の実務や生活に活かすことです。やや高度な言語素材も教材として扱い、国際人として求められるフランス語圏の社会や文化の理解にもつとめます。目標をさらに具体的に設定すれば、1年次で仏検3級程度、2年次で準2級程度の能力までの到達を目指します。

◆ 科目編成

配当 年次	科目名	授業開講 期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副)フランス語・異文化コミュニケーション 1	春学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶフランス語 1	春学期	2
	(副)フランス語で学ぶ文化・社会 1	春学期	2
	(副)フランス語・異文化コミュニケーション 2	秋学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶフランス語 2	秋学期	2
	(副)フランス語で学ぶ文化・社会 2	秋学期	2
2 年次 (3 回生以上配当)	(副)時事フランス語 1	春学期	2
	(副)フランス語・比較文化論 1	春学期	2
	(副)フランス語プレゼンテーション 1	春学期	2
	(副)時事フランス語 2	秋学期	2
	(副)フランス語・比較文化論 2	秋学期	2
	(副)フランス語プレゼンテーション 2	秋学期	2

◆ 科目について

◇フランス語・異文化コミュニケーション1

この科目が目指すのは、フランスの社会で、人・モノ・情報へと実際にどうやってアクセスするか、そしてそこで遭遇する問題にどうやって対峙するかを理解することです。この科目を通し、フランス語については、特に、「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力を開発します。専門分野については、現代フランスの生活世界でのさまざまな場面を通じ、知識を疑似体験的に身につけることで、総合的なコミュニケーション能力を涵養します。副専攻に登録したばかりの2回生にとって、中級フランス語とフランス地域研究の入り口となる科目です。

◇フランス語・異文化コミュニケーション2

この科目は、「フランス語・異文化コミュニケーション1」を受け、フランスの生活世界の様々な場面で遭遇する少々困難な問題を、「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力を用い、フランスで生きる人々と繋がり助け合いながら解決する方法を身につけることを目指します。この科目を通じ、生活者としてフランスに受容されるために、少々複雑なことや、まとまったことをフランス語で書いたり話したりといった「表現」がどれほど重要で意義を持つかが体感的に理解できるようになります。

◇フランス語で学ぶ文化・社会1

この科目が目指すのは、フランス語のテキストを元に、現代フランスの社会と文化を理解することです。この科目を通し、フランス語については、特に「読む」という能力を開発します。また、専門分野については、フランス社会や文化を扱うニュースやネットのトピックなどを、一次情報から直接理解し、客観的あるいは相対的に捉える力を養成します。副専攻に登録したばかりの2回生にとって、中級フランス語とフランス地域研究への入門となる科目です。

◇フランス語で学ぶ文化・社会2

この科目は、「フランス語で学ぶ文化・社会1」を受け、「1」より少々高度な内容を扱うフランス語のテキストを通し、フランス語の能力をさらに高めながら、現代フランスの社会と文化をさらに深く理解することを目指します。「1」に引き続き、フランス語の「理解する(読む)」という能力にフォーカスを当て、それを伸長させると同時に、

現代のフランス社会や文化への関心とそれに対する理解力も増強させるので、フランスの社会や文化の動向やその意味を正確に捉えること、また、それらを現代日本の社会や文化の問題の解決に応用することができるようになります。

◇映像・CALL で学ぶフランス語1

この科目が目指すのは、フランス語のテキストや映像等の多様なチャンネルを通じ、現代フランスの社会と文化を理解することです。この科目を通し、フランス語については、特に「聞く」「読む」という能力を開発します。また、専門分野については、多様な主題の映画、テレビ番組などを、一次情報から直接理解し、客観的あるいは相対的に捉える力を養成します。

◇映像・CALL で学ぶフランス語2

この科目は、「映像・CALL で学ぶフランス語1」を受け、「1」より少々高度な内容を扱うフランス語の多様なチャンネル(テキスト、音声、映像等)を通し、フランス語の能力をさらに高めながら、フランス語圏の多様なピックをさらに深く理解することを目指します。「1」に引き続き、フランス語の「理解する(聞く・読む)」という能力にフォーカスを当て、それを伸長させると同時に、現代のフランス語圏で人々が直面する様々な主題への関心とそれに対する理解力も増強させるので、フランスの社会や文化の動向やその意味を正確に捉えること、また、それらを現代日本の社会や文化の問題の解決に応用することができるようになります。

◇時事フランス語 1

この科目の目的は、学習の対象を時事問題にまで広げ、やや抽象的な内容のテキストや映像を扱うことで、「フランス語で学ぶ文化・社会1・2」で開発した「理解する(聞く・読む)」という能力をさらに伸長させることです。フランスや他のフランス語圏の国々のアクチュアルな社会・政治・文化の問題を理解し、そこで扱われている問題について深い考察をすることで、この科目を通じ、フランス語自体の高度な理解はもちろんのこと、これまで慣れ親しんできた視点とは全く異なる視点から社会を眺めることができるようになります。

◇時事フランス語 2

この科目は、「理解する(聞く・読む)」に関わるフランス語とフランス地域研究の総仕上げとなる科目です。「時事フランス語1」までで扱った、フランスや他のフランス語圏の国々のアクチュアルな社会・政治・文化の問題をさらに深く理解し、自ら考察し、その考えを世界へと投げ返す可能性までを追求します。フランス語圏に留まらず、世界中の時事問題にまで関心を広げ、そこで問題となっていることについて、深く理解し、真剣に考えること、さらにその考えを世界へと発信するのを意識することが到達点となります。この科目を通じ、フランス語の高度な理解のみならず、コスモポリタンとしての広い視野と深い思考を身につけられるようになります。

◇フランス語・比較文化論1

この科目の目的は、まずは2回生で開発した「理解する(聞く・読む)」「書く」という能力をさらに伸長させることにあります。さらに、その能力を用い、日仏の文化に関するテキストの読解に基づく考察を行い、また、その考えを日本語やフランス語で発信できるようになるのを目指します。この科目を通じ、フランス語の高度な能力開発はもちろんのこと、異なる文化や社会を相対的な視点で捉えることができるようになります。

◇フランス語・比較文化論2

この科目の目的は、まずは「フランス語・比較文化論1」で伸張させた「理解する(聞く・読む)」「書く」という能力をさらに伸長させることにあります。また、「1」で始めた、日仏の文化に関するテキストの読解をさらに高度なテキストにまで適用し、それを通じて涵養される自分の意見を日本語やフランス語でまとめるのを目指します。この科目を通じ、フランス語の高度な能力開発はもちろんのこと、異なる文化や社会を相対的な視点で捉えることができるようになります。

◇フランス語プレゼンテーション1

この科目の目的は、「フランス語異文化コミュニケーション1・2」で開発した「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力を、フランス社会の様々な事象に対して用いることで、社会と「表現」との関わりを、実践を交えて体感的に理解することにあります。この科目を通じ、現代フランス社会の多様な事象が、どのような「表現」により捉えられ生活世界に入ってくるか、また、どのような「表現」を用いることで、生活者が具体的な一つ一つの社会的事象と関わり、影響を及ぼし合うのかを理解できるようになります。また、学んだ「表現」を用いることで、他者と助け合いながら、困難な社会問題に対する対策を導き出すこともできるようになります。

◇フランス語プレゼンテーション2

この科目の目的は、「フランス語プレゼンテーション1」で扱った内容を発展させ、フランスで生活する皆さんが複雑な社会問題とどのような経緯で遭遇するか、また、それを解決するのに「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力をどうやって有効に機能させるかを、実践を通じて理解することにあります。この科目は実践的学習の総仕上げでもあります。この科目を通じ、皆さんは、フランスのさまざまな社会問題が、多様な場面で生活者の日常と繋がる可能性があること、また、そのとき、繊細な表現で問題を捉え、言葉を発するのがいかに重要であるかを実践的に学ぶことになります。そして、その実践を通じ、さまざまな生き抜くための表現を身体的な知識として獲得することができるようになります。

【 中国語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

中国語の実用的な会話、長文読解、文章作成、リスニング、スピーチ練習などを通じて、国際社会で活躍できる中国語能力を養成するとともに、中国語圏の社会、文化、経済などに対する理解を深めます。

また、チームで協力して学習をすることで、学生同士の交流を深めます。

◆ 科目編成

配当 年次	科目名	授業開講 期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副)中国語・異文化コミュニケーション 1	春学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶ中国語 1	春学期	2
	(副)中国語で学ぶ文化・社会 1	春学期	2
	(副)中国語・異文化コミュニケーション 2	秋学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶ中国語 2	秋学期	2
	(副)中国語で学ぶ文化・社会 2	秋学期	2
2 年次 (3 回生以上配当)	(副)時事中国語 1	春学期	2
	(副)中国語・比較文化論 1	春学期	2
	(副)中国語プレゼンテーション 1	春学期	2
	(副)時事中国語 2	秋学期	2
	(副)中国語・比較文化論 2	秋学期	2
	(副)中国語プレゼンテーション 2	秋学期	2

◆ 科目について

◇中国語・異文化コミュニケーション1

本授業では、中国語・基礎および中国語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について中国語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、中国語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇中国語・異文化コミュニケーション2

本授業では、中国語・異文化コミュニケーション 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について中国語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、中国語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇中国語で学ぶ文化・社会1

本授業では、中国語・基礎および中国語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に中国語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、中国語圏の文化・社会の理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇中国語で学ぶ文化・社会2

本授業では、中国語で学ぶ文化・社会 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に中国語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、中国語圏の文化・社会の理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇映像・CALL で学ぶ中国語1

本授業では、中国語・基礎および中国語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚

教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して中国語の多様性も学んでいく。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇映像・CALL で学ぶ中国語2

本授業では、映像・CALL で学ぶ中国語 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して中国語の多様性も学んでいく。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇時事中国語 1

本授業では A2 程度の語学力を前提として、さらに語学力を高める。特に中国語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行して中国語圏の時事問題への理解を深め、日本と中国語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇時事中国語 2

本授業では、時事中国語 1 で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。特に中国語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行して中国語圏の時事問題への理解を深め、日本と中国語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

◇中国語・比較文化論1

本授業では A2 程度の語学力を前提として、中国語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、当該分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これにより中国語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇中国語・比較文化論2

本授業は中国語・比較文化論1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業では中国語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、当該分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これにより中国語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

◇中国語プレゼンテーション1

本授業では A2 程度の語学力を前提として、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、中国語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇中国語プレゼンテーション2

本授業は中国語プレゼンテーション1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業では、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、中国語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の 3 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

【 スペイン語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

スペイン語圏(スペイン、中南米諸国)の歴史、文化や現代社会についての専門的知識を身につけるとともに、国際社会で活躍できる高度なスペイン語運用能力を獲得することを目標とします。具体的には、スペイン教育・職業訓練省実施のDELE(Diplomas de Español como Lengua Extranjera)のB1～2合格、および日本スペイン協会実施のスペイン語技能検定3級合格を目指します。上記目標達成のために、現地で学ぶ初修語セミナー参加を大いに奨励します。また、副専攻受講者から、半年または1年間の留学者が出ることを期待しています。

◆ 科目編成

配当 年次	科目名	授業開講 期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副)スペイン語・異文化コミュニケーション 1	春学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶスペイン語 1	春学期	2
	(副)スペイン語で学ぶ文化・社会 1	春学期	2
	(副)スペイン語・異文化コミュニケーション 2	秋学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶスペイン語 2	秋学期	2
	(副)スペイン語で学ぶ文化・社会 2	秋学期	2
2 年次 (3 回生以上配当)	(副)時事スペイン語 1	春学期	2
	(副)スペイン語・比較文化論 1	春学期	2
	(副)スペイン語プレゼンテーション 1	春学期	2
	(副)時事スペイン語 2	秋学期	2
	(副)スペイン語・比較文化論 2	秋学期	2
	(副)スペイン語プレゼンテーション 2	秋学期	2

◆ 科目について

◇スペイン語・異文化コミュニケーション1

本授業では、スペイン語・基礎およびスペイン語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象についてスペイン語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、スペイン語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇スペイン語・異文化コミュニケーション2

本授業では、スペイン語・異文化コミュニケーション 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象についてスペイン語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、スペイン語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇スペイン語で学ぶ文化・社会1

本授業では、スペイン語・基礎およびスペイン語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特にスペイン語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、スペイン語圏の文化・社会の理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇スペイン語で学ぶ文化・社会2

本授業では、スペイン語で学ぶ文化・社会 1 で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特にスペイン語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、スペイン語圏の文化・社会の理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。この授業では、他の 2 回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の獲得を目指す。

◇映像・CALL で学ぶスペイン語1

本授業では、スペイン語・基礎およびスペイン語・展開で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通してスペイン語の多様性も学んでいく。この授業では、他の2回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A2程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇映像・CALL で学ぶスペイン語2

本授業では、映像・CALL で学ぶスペイン語1で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通してスペイン語の多様性も学んでいく。この授業では、他の2回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A2程度の語学力の獲得を目指す。

◇時事スペイン語1

本授業ではA2程度の語学力を前提として、さらに語学力を高める。特にスペイン語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行してスペイン語圏の時事問題への理解を深め、日本とスペイン語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B1程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇時事スペイン語2

本授業では、時事スペイン語1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。特にスペイン語圏の時事に関する教材を使用して、当該分野の専門的な表現力・語彙力の向上に努める。これと並行してスペイン語圏の時事問題への理解を深め、日本とスペイン語圏の関係を比較検討できる視野の獲得を目的とする。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B1程度の語学力の獲得を目指す。

◇スペイン語・比較文化論1

本授業ではA2程度の語学力を前提として、スペイン語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、当該分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これによりスペイン語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B1程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇スペイン語・比較文化論2

本授業はスペイン語・比較文化論1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業ではスペイン語圏と日本の文化を比較検討する素材に取り組むことで、当該分野の専門的な表現・語彙を習得しつつ、さらなる語学力の向上を目指す。これによりスペイン語圏と日本の文化を交互に照射する視点を獲得することを目的とする。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B1程度の語学力の獲得を目指す。

◇スペイン語プレゼンテーション1

本授業ではA2程度の語学力を前提として、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、スペイン語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B1程度の語学力の達成を視野に入れる。

◇スペイン語プレゼンテーション2

本授業はスペイン語プレゼンテーション1で修得した基礎力を前提として、さらなる発展を目指す。この授業では、現代社会の政治・経済・社会・文化などの諸分野について、個人またはグループによるプレゼンテーションの基本を学び、スペイン語の日常会話をこえる論理的な表現力の習得を目指す。これにより現代社会の諸事

象について理解を深めることを目指す。この授業では、他の3回生科目と連携しつつ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

【 朝鮮語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

1回生基礎・展開の授業で学んだ内容は入門/初級レベルで、K-POP や韓国ドラマをまるごと聞き取るためには、もう少しのエクサイズが必要です。ぜひ朝鮮語コミュニケーションコースを選択し、より実践的でハイレベルな「使える」言葉、たとえば韓国人留学生と会話やチャットを楽しんだり、韓国・朝鮮の新聞や雑誌、ネット情報にアクセスしてレポート作成に役立てられる力を身につけましょう。韓国ドラマや映画、K-POP など題材に、中級から中上級レベルの「話す・聞く・読む・書く」力を楽しみながら着実に養成します。

◆ 科目編成

配当 年次	科目名	授業開講 期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副)朝鮮語・異文化コミュニケーション 1	春学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶ朝鮮語 1	春学期	2
	(副)朝鮮語で学ぶ文化・社会 1	春学期	2
	(副)朝鮮語・異文化コミュニケーション 2	秋学期	2
	(副)映像・CALL で学ぶ朝鮮語 2	秋学期	2
	(副)朝鮮語で学ぶ文化・社会 2	秋学期	2
2 年次 (3 回生以上配当)	(副)時事朝鮮語 1	春学期	2
	(副)朝鮮語・比較文化論 1	春学期	2
	(副)朝鮮語プレゼンテーション 1	春学期	2
	(副)時事朝鮮語 2	秋学期	2
	(副)朝鮮語・比較文化論 2	秋学期	2
	(副)朝鮮語プレゼンテーション 2	秋学期	2

◆ 科目について

◇朝鮮語・異文化コミュニケーション1

ネイティブ話者の教員が会話力向上のためのテキストを用いながら、1 回生時の基礎展開で学んだ内容をベースに発話とリスニングを主体にした実践的な会話能力を養成する授業です。テキストの会話文のほか聞き取りやすい韓国ドラマや映画などの場面を使いながら、コリアンの日常的なコミュニケーション方法を身につけます。会話は、お手本に耳と心を浸しながら、文法事項にあまりとらわれすぎず、片言でも自分なりの表現方法で気楽に楽しめれば目的達成です。フレンドリーなネイティブの先生と、少しずつ「言葉のやり取り」能力を伸ばしていきましょう。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)A2 程度の語学力の達成を視野に入れます。

◇朝鮮語・異文化コミュニケーション2

「異文化コミュニケーション1」に引き続いて、ちょっぴりレベルアップした会話力を養成する授業です。やさしめの文学作品や韓国の漫画、WEB ドラマ、K-POP 動画などもテキストに使いながら「コリアンぽい」話し方、身振りや手ぶりも学びます。肩の力を抜いて、朝鮮語を使ったコミュニケーションを楽しみましょう。(CEFR)A2 程度の語学力を目指します。

◇朝鮮語で学ぶ文化・社会1

やさしい朝鮮語の読み物や韓国ドラマの場面、K-POP の歌詞映像、コリアンビジネスのための教材など映像をふくめた多様なコンテンツを使ってことばの学習を進めながら、朝鮮半島の社会と文化も学ぶ初中級レベルの科目。1回生時の「朝鮮語基礎・展開」で身につけた能力のうち、特に「書く・読む」能力の向上に重点を置きます。コリアン社会を成り立たせている文化的なものの見方や情緒さらには韓国語によるビジネス入門練習を通じて、朝鮮半島に生きる人々への親近感とより深い理解力を養うことを目指します。CEFR の A2 が目標です。

◇朝鮮語で学ぶ文化・社会2

「朝鮮語で学ぶ文化・社会 1」に引き続き、多様なコンテンツを使いながら朝鮮語リーディングのほかリスニング、スピーキング、ライティングなどの力をバランス良く向上させる授業。韓国語によるビジネス入門も継続して

学んでいきます。CEFR の A2 レベルを目指します。

◇映像・CALL で学ぶ朝鮮語1

韓国のテレビニュースやドラマ、映画、WEB ドラマなどをテキストに、リスニング力養成に重点を置きつつ会話や読解全般の朝鮮語能力向上を目指す授業です。「字幕なしで韓国ドラマを見る」ようになるための第 1 歩です。リスニングのポイントを授業でしっかりと身に付け、ネットであふれている韓国語コンテンツに毎日アクセスすれば、短い期間で向上間違いなしです。最初はやさしい内容から始めます。目標は CEFR の A2 です。

◇映像・CALL で学ぶ朝鮮語2

「映像・CALL で学ぶ朝鮮語 1」に引き続いて、少しだけレベルアップしたコンテンツを用いながらリスニングに重点を置きつつ朝鮮語能力全般の向上を目指す授業です。少し早口のテレビニュースアナウンサーの声を聴きとったり、字幕や日本語バージョンなしで原曲のまま K-POP 歌詞を聴き取るレベルを目指します。いろいろなコンテンツを通じて最新の韓国社会や文化も学ぶことができます。CEFR の A2 に準拠。

◇時事朝鮮語 1

韓国の新聞・雑誌の記事やテレビニュース、K-POP の歌詞などを教材にして、韓国の社会や文化状況の「今」を学びつつ、朝鮮語の読解とリスニング力を鍛える中上級向けクラスです。韓国ドラマや K-POP の流行で、リスニングはそれなりにできてニュースの記事などはさっぱり読めないという人もいます。バランスある実践力向上を心掛けます。受講生のレベルを考慮しながら、ビジネス用の言葉や会話にも挑戦します。毎回出される課題文を翻訳し、授業では内容確認ののちリスニングや文書読み上げの練習をくりかえし行い、最後に課題文について朝鮮語でディスカッションを行います。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) B1 程度の語学力の達成を視野に入れます。

◇時事朝鮮語 2

「時事朝鮮語 1」に引き続いて、ちょっぴりハイレベルの新聞・雑誌記事映像コンテンツをテキストに読解、作文、リスニング能力向上を目指す授業です。中上級レベルを目指します。韓国語の資格試験(ハングル検定や TOPIK など)を目指す人、教養や専門科目のレポート・論文作成に韓国・朝鮮で出ているハングル資料も活用したいという人にもお勧めです。受講生のレベルや需要に応じて、受講生朝鮮語能力の「次の一歩」を開いていきます。(CEFR)B1 程度の語学力の獲得を目指す。

◇朝鮮語・比較文化論1

日本ではご飯はお箸で食べるのがマナーですが、朝鮮半島では普通、スプーンを使って食べます。日本語の「顔が広い」は朝鮮語では「足が広い」といいます。日本と隣国の朝鮮半島は、文化や歴史的な社会習慣がよく似ている半面、思わぬ部分で違っているときもあり、びっくりすることがたくさんあります。そうした違いを朝鮮語を使って学びながら、朝鮮語能力とともにお互いに異文化としての日本と朝鮮半島の歴史と現在の関係を知り、国際理解を拓けることを目的にした授業です。普通の言語の授業では知れない奥深い文化に触れられます。CEFR の B1 を目指します。

◇朝鮮語・比較文化論2

「朝鮮語・比較文化論 1」に引き続いて、日本と朝鮮半島の社会や文化、その交流史まで幅広い朝鮮語コンテンツを題材に取り上げながら学びを進めます。テキストの読解のほか、朝鮮語を使ったディスカッションも行い、朝鮮語能力全般の力を向上させます。韓国ドラマの背景が分かる「物知りレベル」から、歴史や現在の日韓関係を朝鮮語で説明できる「国際派」レベルの教養を朝鮮語で学びます。朝鮮語資格試験受験にも有効です。CEFR B1 レベルを目指します。

◇朝鮮語プレゼンテーション1

みなさんは大学 1 回生の時から、さまざまな授業でプレゼンテーションを経験してきました。テーマを設定し、文献やインタビューなどを使って行った調査内容に基づいて、問題点はどこにあり、どのような対処法や結論があ

りえるのかに至るスピーチ内容を、レジュメやパワーポイントを用いて聞き手に分かりやすいように論理的でかつ簡潔な報告として組み立てる一連の作業は、自分自身のものの見方や考える過程を画期的に磨いてくれます。母語ではない朝鮮語を使ったプレゼンテーションの経験は、単なる日常会話ではなく論理的な言葉の運用を飛躍的に伸ばしてくれると同時に、日本語を用いて行うプレゼンとは違ったより広がりのある視点と深い達成感をもたらしてくれます。ネイティブ話者の教員が、受講生にとって興味深いテーマを提示しながら、朝鮮語を使ったプレゼン方法を基礎から易しく後押ししてくれます。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)B1 程度の語学力の達成を視野に入れます。

◇朝鮮語プレゼンテーション2

「朝鮮語プレゼンテーション 1」に引き続き、朝鮮語を使ったプレゼンテーション体験を通じて、より体系的で論理性のある朝鮮語の使い方に習熟していきます。プレゼン製作の過程で朝鮮語資料を読むための読解力、報告内容やレジュメ・パワーポイントを作るためのライティング力、口述報告のためのスピーキング力、教員との質疑応答ではリスニング力も含めた会話力総体、という具合に朝鮮語運用能力の全ての面を磨き上げるための絶好の機会になります。またしっかり準備したプレゼンを通じて、そのテーマに設定した朝鮮半島や日本をめぐる社会や文化の実情と課題が立体的に理解できるようになります。難しそうに思えるかもしれませんが、フレンドリーな教員が初歩からがっちりサポートしてくれます。CEFR B1 レベル達成を目指します。

【OIC 全学副専攻に関する窓口】

立命館大学 言語教育センター(OIC)

@A 棟 1 階 AN 事務室

月～金 10:00～17:00

(※土・日及び祝日(土・祝日に行われる授業日・補講日含む)は終日閉室しています。)

TEL (072) 665-2061

E-mail : gengooic@st.ritsumeai.ac.jp